教育プログラム・コースの概要

大学名等	国際医療福祉大学大学院医学研究科、薬学・薬科学研究科、医療福祉学研究科
教育プログラム・コース名	がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース（正規課程：薬科学研究科、医療福祉学研究科修士課程）
対象職種・分野	医師（検診医療、腫瘍内科、緩和医療、遺伝医学、公衆衛生学、外科、放射線科、病理診断科など）、看護師・保健師、薬剤師、歯科医、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラー、生殖補助医療胚培養師、理学・作業・言語聴覚療法士、診療情報管理士（診療情報アナリスト、データサイエンティスト）、社会福祉士、介護福祉士、公認心理師（臨床心理士）、がん検診事業管理者など
修業年限（期間）	２年
養成すべき人材像	がんの予防医学・検診医療を大きな柱として、ビッグデータを集積してがんの予防医療を開発に意欲を持つ人材が機能的なチームを形成し、EBMに基づく将来への提言とがんの新しい予防施策を提言できるような医療専門職を養成する。さらに本コースではがんサバイバーに対する再発予防の観点から身体的・精神的なケア（生活支援や治療支援）に携わる人材の養成を行う。
修了要件・履修方法	必修科目６単位以上を含む１０単位以上を履修し、試験に合格すること。
履修科目等	＜必修科目＞予防医学総論（２単位）、がん診療の基礎知識（２単位）、がんのカウンセリング概論（２単位） ＜選択科目＞臨床疫学概論（２単位）、診療情報管理学（２単位）、がんサバイバーケア（２単位）（連携校共通）、がん理学療法学（１単位）、がん治療の先端知識の基礎（２単位）、医療プロフェッショナリズム・医療安全（１単位）、がん治療薬学（２単位）、がん看護学（２単位）、がん治療放射線医科学（２単位）、がん臨床検査学（１単位）、医療福祉データサイエンス（２単位）、生物統計学概論（２単位）など
がんに関する専門資格との連携	腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会）、がん専門看護師（日本看護協会）、認定遺伝カウンセラー（日本遺伝カウンセリング学会）、細胞検査士（日本臨床細胞学会）、緩和ケア専門医（日本緩和医療学会）など
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん予防医学、がん検診医療を教育内容の中心として、さらにがんサバイバーに対する再発予防の観点から身体的・精神的なケアに携わる人材の教育を行う。医師に加えてがん予防や検診業務にかかわる多彩な業種、公認心理師や社労士などの参加をえてチーム医療人材教育にも注力する。分析に必要な生物統計学やデータサイエンの知識を実践的に習得することを特色とする。本学関連施設の予防医学センター（ドックセンター）や医療情報管理部、医学研究科公衆衛生学（データサイエンス）、診療情報アナリスト養成分野、臨床心理学分野の支援を得ている。選択科目は多面的な専門職種のエキスパートの多様なニーズに対応した教育内容を設定した。
指導体制	院生の専攻分野の責任者や指導教員が責任を持って指導を行う。共通項目の学修に関しては連携校の委員と共にWGを編成して対応する。データサイエンスや生物統計学専門家、臨床心理士、ケアマネージャーなどの多職種の参加を得て行う。
修了者の進路・キャリアパス	医師（遺伝専門医、腫瘍内科医、緩和ケア）のみならず専門看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラー、ケアマネージャーや介護福祉士、リハビリ職種、臨床心理士など多様な職種がん診療病院で指導的役割を担うことを期待する。
受入開始時期	令和６年４月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	3	3	3	3	3	15

受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院のがんプロ志願者数及び大学院医学研究科公衆衛生学専攻及び医療福祉学研究科の入学者実績から、受け入れ目標人数を３人と設定した。

履修者数 ※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	10					10